

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察注意報について

令和5年度病害虫発生予察注意報第6号を発表したので送付します。

令和5年度病害虫発生予察注意報第6号

- 1 作物名 さとうきび
- 2 害虫名 メイチュウ類
- 3 発生地域 宮古群島、南大東島、粟国島

4 注意報発令の根拠

- (1) 12月上旬の宮古島及び伊良部島での調査の結果、新植夏植えほ場の芯枯茎率は14.5%と平年より高く(前年7.1%、平年7.3%、図1)、平年の発生量の推移から今後も増加すると見込まれる。地域毎の芯枯茎率は、平良で11.2%、上野で16.5%、下地で6.7%、城辺で16.1%、伊良部島及び下地島で20.8%であった。芯枯茎切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫はすべてカンシャシクイハマキであった。
- (2) 12月上旬の南大東島での調査の結果、新植夏植えほ場の芯枯茎率は18.9% (発生ほ場率100%)であった(図2)。
- (3) 12月上旬の粟国島での調査の結果、新植夏植えほ場の芯枯茎率は13.6% (発生ほ場率100%)であった(図3)。

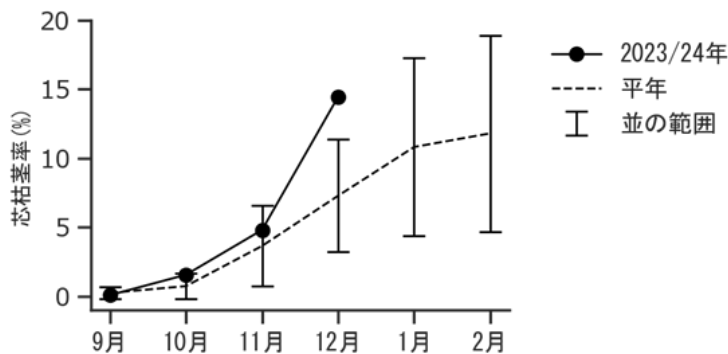


図1 宮古島及び伊良部島におけるメイチュウ類(芯枯茎)の発生推移



図2 芯枯れの状況(南大東島)



図3 芯枯れの状況(粟国島)

5 発生生態および被害

(1) メイチュウ類共通

- a 被害ほ場およびイネ科雑草が発生源となり、ほ場に侵入する。
- b ふ化幼虫は葉鞘の内側を下降して節部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れ（図4）を起こす。

(2) カンシャシクイハマキ（図5）

- a 沖縄では年6～7世代を重ね、周年発生する。
- b 卵は葉や茎に1～数卵ずつ産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は200～500卵に達する。
- c 被害はほ場内に散在的に発生する。

(3) イネヨトウ（図6）

- a 沖縄では年5～7世代を重ね、周年発生する。
- b 卵は葉鞘の裏側に卵塊で産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は400～700卵に達する。
- c 初期被害はほ場周縁部で見られ、ほ場内でスポット状や畝に沿って被害が拡大する。被害が集中的に起こるため、生育初期に加害されると坪枯れを起こすこともある。

6 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場及び周辺の除草を徹底する。
- (2) 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- (3) 茎葉への水和剤等の散布は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。MEP単独成分の剤は感受性低下の報告があるため、他の剤を中心に散布する。
- (4) 薬剤防除後、2～3週間をおいて再度防除を行うことで防除効果が高まる。
- (5) 被害の多い地域では薬剤による一斉防除を行う。

※農薬の使用にあたっては、ラベルをよく読み、登録内容を確認して正しく使用する。



図4 芯枯茎



図5 カンシャシクイハマキ幼虫



図6 イネヨトウ幼虫